

令和5年度 事業評価シート

所属名	建設局道路部 道路計画課
-----	--------------

1. 基本情報

事業名称	道路計画費（交通ビッグデータの活用検討）
実施根拠 (条例・規則・要綱等)	船橋市交通ビッグデータ見える化協議会設置規約
事業開始年月日	令和2年6月29日
最終改正年月日	令和2年6月29日
事業目的 (実現・達成したいこと)	交通ビッグデータを活用し、市内の交通状況を「見える化」し、交通円滑化及び交通安全を相乗的に向上させることを目的としている。
事業概要 (誰に、何を、どうするのか)	<p>市内の交通渋滞や交通安全を国から貸与を受けるETC2.0プローブ加工データや県警から貸与される事故データなどの交通ビッグデータを活用し、「船橋市交通ビッグデータ見える化協議会」で、客観的データに基づく、円滑化対策、安全対策を立案している。</p> <p>交通ビッグデータを活用することで、これまで地元要望や職員の経験、現地確認を踏まえた主体的な評価が中心であったが、データに基づく客観的な評価・分析が可能となり、根拠に基づく施策立案が実現できるようになった。</p> <p>立案された対策をもとに、交通円滑化に関しては、国道・県道部分については、国、県への要望、信号現示等については、警察へ要望、市道部分については、交通シミュレーションシステムを活用しながら、都市計画道路や交差点改良の優先整備箇所を選定を行っている。</p> <p>また、交通安全に関しては、「ゾーン30プラス」の整備等につなげている。</p> <p>さらに対策実施箇所については、最新のデータを用いて効果検証を行い、追加での対策の必要性も検討し、PDCAを回している。</p>
実施背景 (事業を実施することになった背景・要因)	<p>市長の提案である、まちづくりの7つの指針にあった、「ビッグデータを活用した渋滞対策」をきっかけに国からETC2.0プローブ加工データの貸与を受けることができ、事業を開始。</p> <p>毎年度実施している市民意識調査でも、市の取組みや全般において、力を入れるべき施策として「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」の回答が約半数弱を占めており、これは過去5年以上常に上位1位となっている。</p> <p>そのことから、限りある予算の中で、データに基づき見える化を図り、効率的・効果的に整備を進めるため実施することとなった。</p> <p>さらに、ビッグデータを活用した事業を進めることが、国庫補助の重点項目となっている。</p>
これまでの経緯 (対象者・要件・限度額、サービス内容などの制度の変遷)	<p>【協議会】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和2年8月25日 第1回船橋市交通ビッグデータ見える化協議会を開催・令和5年1月までに計8回の協議会と計6回の対策部会を開催 <p>【対策完了箇所】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和3年10月4日：国道14号西船橋駅前交差点（歩車分離式信号への変更）・令和4年1月18日：塚田地区ゾーン30内安全対策の追加・令和4年3月10日：古作地区「ゾーン30プラス」供用開始・令和4年4月28日：薬円台交差点右折レーン設置

事業内容	対象者	内容 (要件・単価・限度額・サービス内容など)
	市民	客観的データに基づく、渋滞対策、安全対策
	国、千葉県、千葉県警察	客観的データに基づく、渋滞対策、安全対策の要望

2. 事業実績

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費 (単位：千円)	当初予算額	-	21,000	1,500	2,100
	うち一般財源	-	21,000	1,500	2,100
	決算(見込)額	-	22,697	2,090	5,170
対象者数・ 交付件数など	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-

3. 交付税、国・県補助の有無

	有無	(ありの場合) 名称・内容
交付税措置	なし	
国・県補助	なし	
(国・県補助への) 上乗せ・横出し	なし	

4. 業務量

繁忙期	6月～9月、12月～2月				
業務頻度 (年1回・月1回など)	年6回				
人工		常勤職員	会計年度任用職員	再任用(フル)	再任用(短)
	人工	0.4人工	0.0人工	0.0人工	0.0人工
	従事者数	1人	0人	0人	0人

※ 職員1人の労働力 = 1人工。当該事業の人工を記載。複数人が携わっている場合は、それぞれの人工を合計。

【記載方法】従事者2人、労働力の割合がそれぞれ3割の場合 ⇒ 合計0.6人工(0.3人工+0.3人工)

評価結果

所管課	建設局道路部 道路計画課
事業名称	道路計画費（交通ビッグデータの活用検討）

（１）一次評価（自主点検）で明らかとなった課題、今後の方向性（改善のアイデア）

項目	課題	今後の方向性
1 分析データの活用等に専門性を要する	<ul style="list-style-type: none">・専門性が高い業務であり、外部機関との調整が多いことや情報の一元化が必要なことから、担当できる職員が限定されている。・また、交通シミュレーションシステムのマニュアルが整備されていない。	<ul style="list-style-type: none">・課内で複数の担当者が活用できるようにするとともに、情報共有の方法や外部機関との円滑な調整を継続して行えるよう、交通シミュレーションシステムのマニュアルを整備する。・交通シミュレーションシステムの活用ができる職員の育成

（２）追加で整理した課題、今後の方向性（改善のアイデア）

項目	課題	今後の方向性
1 分析データの活用等に専門性を要する	—	—